

# 年頭の あいさつ



豊山町議会議長  
坪井 孝仁

新年あけましておめでとーうございます。

町民の皆様には、希望に満ちた輝かしい新春をお迎えのことと、心からお慶び申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルスの感染法上の位置づけが5類に移行し、本町においてもコロナ禍以前のように、様々なイベントが開催されました。中でも豊山ユース・フェス、子ども記者プロジェクト、子ども消防クラブなど、子どもが主体となるイベントが多く開催されました。町議会といたしましても昨年に引き続き、子ども議会を開催し、子どもたちが一般質問を通じて、今後の豊山町のあり方を真剣に考える機会を創出することができました。

また、昨年は町議会議員の改選がありました。町議会は町民の皆様を代表し、町民の総意を町政へ反映させる重要な役割を担っています。町民の皆様には、新年を輝かしいものとして創り上げていくため、新しい豊山町議会とともに町政への関心と積極的な参画をお願いいたします。結びに、町民の皆様のご多幸を祈念するとともに、よりよいまちづくりのためのご支援とご協力をお願い申し上げます、新年のごあいさつとさせていただきます。

令和六年元旦

# 新春を迎えて



愛知県知事  
大村 秀章

あけましておめでとーうございます。新たな年が、県民の皆様にとりまして素晴らしい一年となりますよう、心からお祈り申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルス感染症が5類感染症へ移行し、アフターコロナへの動きが加速する中、安心な日常生活を取り戻し、社会経済活動を回すための取組をオール愛知一丸となつて進めてまいりました。

そうした中、昨年は、新たに「ものけの里」が開園した「ジブリパーク」を始め、国内最大のスタートアップ支援拠点「STATION A」や「愛知国際アリーナ」の整備を着実に推進するとともに、二〇二六年の愛知・名古屋アジア・アジアパラ競技大会に向けた準備をしっかりと進め、愛知を更なる「飛躍」へと導く一年とすることができました。また、国に先駆けて取り組んだ「少子化対策パッケージ」や、本県独自の「休み方改革プロジェクト」など、時代の流れを見極めながら、愛知が「ファースト・ペンギン」となり、様々な取組に果敢にチャレンジした一年でもありました。

世界は、グローバル化やデジタル化の加速度的な進展、SDGs実現に向けた潮流など、大きく変化をしています。こうした変化に的確に対応し、将来にわたり、愛知が成長を続けていくためには、何より、愛知を支える「人づくり」が重要となります。

今年も、日本の未来を形づくるビッグプロジェクトを着実に進めるとともに、新時代を担う人材の育成・発掘に力を注ぎ、「日本一元気なあいち」の実現を目指してまいります。今年三月には、ジブリパーク最大のエリアである「魔法の谷」が開園し、フルオープンを迎えます。また、十月には、「STATION A」がいよいよ開業します。世界中から最先端の技術・サービス、人材を愛知に呼び込み、新たなイノベーションを次々と創出することで、更に人材が育ち集まってくる、そうした人材の好循環を生みだし、更なる愛知の成長につなげてまいります。

もちろん、こうした取組とあわせ、社会インフラ整備や農林水産業の振興、教育、女性の活躍、医療・福祉、感染症対策、環境、雇用、多文化共生、防災・交通安全、東三河地域の振興など、県民の皆様のご生活と社会福祉の向上にも力を注いでまいります。引き続き、県民の皆様すべてが豊かさを実感できる「日本一住みやすい愛知」、すべての人が輝き、未来へ輝く「進化する愛知」の実現を目指し、全力で取り組んでまいりますので、一層のご理解とご支援をお願い申し上げます。

二〇二四年元旦